

地域密着、
身近な話題を
体験取材!

まちかど

特派員だより

日本の無人販売と家庭菜園

私はフィリピンのセブ島出身です。結婚して平成元年に日本に来て、初めて暮らし始めた場所が上尾でした。今日は、私が面白いと思った日本の文化、無人販売を紹介します。

日本の無人販売は朝早い時間に野菜、果物、花を販売しています。私は朝のジョギングをしながら上平公園の近くの農家の人2人と家庭菜園をしている人にインタビューしました。

農家の70代女性は、30年以上無人販売をやっています。毎朝早く起きて新鮮な季節の野菜を収穫して無人販売に並べると、朝早くからお客さんが次々に買っていきます。60代女性は犬の散歩をしながら新鮮なホウレンソウと大根と

ネギを買っていました。公園の近くのので、ラジオ体操をやっている人やジョギングしている人、仕事に行く人もついでに買っていきます。70代女性は「一人暮らしだから野菜の量がちょうど良い」と買っていきます。仏壇の花などもとても安く買いに来るのが楽しいそうです。

70代男性は30年以上続く農家の2代目です。毎日たくさん朝採り野菜を家の前で無人販売しています。季節によっていろいろな野菜、花、果物があります。夏はスイカ、とうもろこし、トマト、キュウリ、なすなど、秋になればブドウ、キウイ、梨などを販売しています。住宅地が近いので若い主婦が多く買っています。

上尾地区
新保 グレース マリアさん



くそうです。

別の70代男性は、20年前から家庭菜園を始めたそうです。とても楽しみながら季節の野菜を栽培しています。栽培した野菜は、家族や子どもたちの家庭に分けています。畑をやっている友達もたくさんきて、畑のやり方の意見交換などをします。日本の農家でたくさん土地を持っている人の中には、自分で管理できないので草ボーボーにしておくよりも利用してもらった方が良く、きれいに畑を使ってくれる人たちに無料で貸している人がいます。フィリピンではそのようなことはないのです。初めて聞いた時びっくりしました。

フィリピンにはない無人販売はとてもずばらしいと思います。無人販売と自動販売機は人と触れ合わない点は同じですが、どこかが違います。自動販売機はお釣りが出ますが無人販売はお釣りが出ません。面白い日本のおもてなしです。

市民の情報交流スポット



アッピーNET掲載団体募集

アッピーNETは市民の皆さんの交流の場として、催しなどへの参加者募集「おいでください」と、各団体のサークル会員募集「いきいきサークル」を掲載しています。観客を増やしたい・会員数を増やしたい団体は気軽に申し込んでください。申し込み方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。



おいでください

- 被爆体験者が描いた原爆絵画展 8月12日(木)13:00~18:00・13日(金)10:00~18:00・14日(土)10:00~15:00、市役所ギャラリー 当日 田原☎777-3006 (18:00まで) **ひと言!** 1枚1枚、ごゆっくり、ご覧ください。
- 小説サークル・上尾 8月21日(土)13:00~16:30、文化センター ☎15人 費一般/1,000円、学生/無料 当日 山口☎090-7249-3155 (19:00まで) **ひと言!** 小説の書き方を勉強して可能性を広げてみませんか。

- 「沢栄」激動の人生を語る 9月12日(日)14:00~16:00(受け付け/13:30)、文化センター ☎40人 費500円 申9月11日(土)までに 山本☎090-5393-4158(着信があればかけ直します) **ひと言!** ~農民、幕臣、役人、実業界、福祉、教育、花柳界~

いきいきサークル

- ストレッチ体操「スイートピーの会」毎月2~3回(火)13:15~14:45、上平公民館または南区公民館 費月額2,000円 申チサキ☎080-6523-2553 (18:00まで)

- ひと言!** 先生指導によるストレッチ体操。無料体験有。年齢不問。
- 大石太極拳 毎月第1・3・4(水)13:00~15:00、大石公民館 費月額1,500円(入会金500円) 申佐藤☎773-3712 **ひと言!** ゆったりとした動きや呼吸で体幹を鍛えます。ご一緒に。
- アートベル 土曜会(絵画) 毎月第2・4(土)13:30~16:30、上尾公民館 費月額2,500円(入会金1,000円) 申小川☎726-2086 (11:30まで) **ひと言!** デッサンや好きな絵を楽しく描きましょう。初心者歓迎。

スポットライト

～人・仲間～



いわくら
岩倉

としゆき
俊之さん
(瓦葺在住)

SPOT LIGHT
The life of a great person

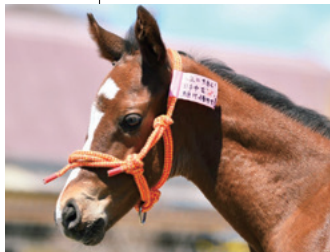
「同級生の力になりたい」。そう話すのは牧場を紹介するインターネットサイト「Pacall」(以下パカラ)を運営する岩倉俊之さんです。

少年時代から馬が好きだったという岩倉さんは、市内の小中学校を卒業した後、競走馬の生産や育成に携わることを夢見て、北海道にあるサラブレッドを生産する日本唯一の高校に単身で進学。そこで目の当たりにしたのは、想像を超える生産牧場の厳しさでした。「馬の命を預かるということは並大抵のことではありませんでした」。馬のわずかな変化も見逃さずに対処する必要があるため、1年365日休むことはできません。熱意だけでなく、知識や体力も求められることを痛感し、抱いていた夢を諦め、高校を卒業してからは、東京で競走馬とは関係のない仕事に就きました。

しかし、今から10年ほど前、競走馬が全く売れず、生産牧場を経営する同級生の苦しむ姿を見て「何か役に立てることはないか」と考えた岩倉さん。その思いは、パカラを立ち上げる形で実を結びます。競走馬ファンが増えれば市場が盛り上がり、さらには馬主になりたい人も増えるだろうと考え、ファンと生産牧場を結び付けることを目指しました。パカラでは、主に記事や動画による牧場の情報発信、牧場見学や乗馬体験の企画を行っています。代表的なプロジェクトは「もくしでつなぐプロジェクト」。「もくし

もくしがつないだ人と夢

～生産者への思いから馬文化を広める～



添えられた馬の成長と共にメッセージを届けるべく

は、馬の口の周りに装着する馬具です。「丈夫に元気に育ってほしい」という応援メッセージを添え、ファンが作ったもくしを牧場主に提供し、子馬に装着してもらいます。パカラを通じて、ファンは子馬が成長していく姿を見守ることができず。

パカラの運営を軌道に乗せるため、再び北海道で過ごす時間が続く中、地元との信頼関係をゼロから築く過程で、改めて人とのつながりの大切さを感じたそうです。「結局最後は人だと思えます。初めはいぶかしむような反応を示した牧場主も、パカラにかける思いを繰り返し伝えることで心を開き、協力してくれるようになりました。何事にも本気で取り組むことで、熱意は必ず伝わるということを実感しました」と自身の経験を生き生きと話す姿が印象的でした。

4カ所だった牧場の登録数は28カ所に増え、今では3千人を超えるファンとながっています。「牧場を身近に感じてもらいたい、競技としての競馬を広めていきたい」と岩倉さんは熱く語ります。

「同級生の力になりたい」という純粋な思いは、競走馬の生産者とファンだけでなく、少年時代の夢もつないで未来に向かって走り始めています。



読者の声

「クイズ アッピーを探そう！」(2ページ参照)で寄せられた『広報あげお』への感想・意見を紹介します。今月は7月号です。

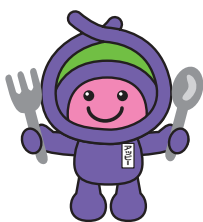
⇒ 広報広聴課 ☎775-4918・☎776-8873 ※内容は一部要約しています。



市政ニュース 2021-2022あげお市民セクションが決定

- あげお市民セクションの3品どれもまだ食べたことがありません。ぜひ一度食べてみたいです。(60代・男性)
- あげお市民セクションを買いにあげお お土産・観光センターに行ってみようと思います(30代・女性)

あげお市民セクションの3品はどれもおいしそうですね。ぜひ味わってみてください。



市政ニュース Web版上尾市洪水ハザードマップを公開

- 水害が怖いので、よく見ておこうと思います。(70代・女性)
- 日頃から十分に備えておきたいと思いました。(40代・男性)

災害はいつ来るかわかりません。日頃からしっかり備えて、いつでも使えるようにブックマークしておきましょう



『広報あげお』は、読者の皆さんの感想を参考にし、より良い誌面作りを目指しています。これからも皆さんの感想をお寄せください。